月報
岡崎の教育

平成 29 年 1 月 1 日
1 月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想…… 1
自然科学研究機構長
小森　彰夫氏
この人に聞く…… 2
ムラセ銅器代表
村瀬　哲也　氏
羅 針 盤 …… 2
技術・家庭科指導員
夏目　弘之
ふれあい…… 3
シンガポール日本人学校
クレメンティ校
杉浦　　聡
特　集…… 4
運動を楽しむおかざきっ子をめざして
お知らせ…… 6
フォト・ヒストリー… 8
親子ドッジボール
（平成 13 年）
この本を…… 8

教育随想

基礎の大切さ

自然科学研究機構長
小森　彰夫　氏

昨年は、大隅良典自然科学研究機構基礎生物学研究所名誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞され、岡崎での研究生活が黄金時代だったと述べられるなど、自然科学研究機構にとって素晴らしい年でした。日ごろからお世話になっています岡崎市民の皆様に感謝申し上げますとともに、今後も自然科学研究機構への御理解と御鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

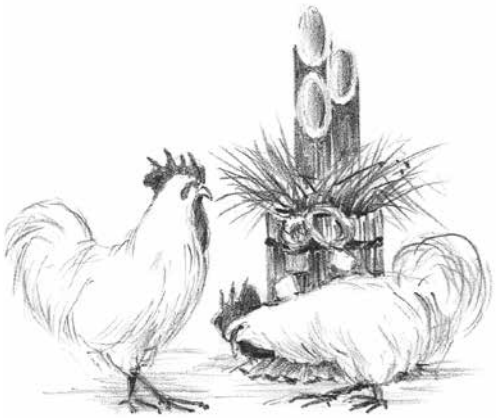
今、日本の大学では、グローバル化が大学改革の柱の一つになっており、この方針は暫く続くと思われます。世界的に見れば、トランプ大統領のアメリカ、EUから離脱する英国のようにグローバル化に疑問を持つ国も現れてはいますが、数十年先、百年先を考えるとグローバル化は避けられません。

グローバル化で行き着いた先でも日本が生き残るには、日本に固有なもの、高度な研究・技術を必要として日本でしかできないものなどを生み続けていく必要があります。高度な研究・技術を極め維持し続けるには、日本の唯一の資源である人を育てるしかありません。

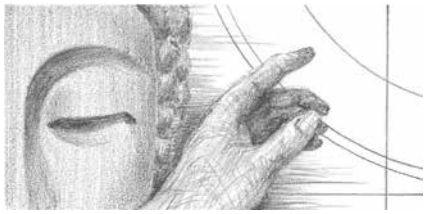
基礎学問・知識を広範にしっかり学び、如何なる局面にも対応できる力を養うことが肝要です。大隅先生は基礎が大切だと常に言及されておられますが、それは基礎がなければ応用も成り立たないからで、すべての分野・活動で言えることです。専門知識だけでは、僅かな変革にもついていけず、瓦解する可能性があります。しかし、基礎ができていれば、他分野の考え・手法をも取り入れるような柔軟な対応によって、難局を乗り切ることができます。

不確実な未来を乗り切れるかどうかは、すべて人で決まります。人を育てるのは特に若い時代の適切な基礎教育なのではないでしょうか。

（こもり　あきお）



この人に聞く



学び続ける

ムラセ銅器代表
村瀬　哲也　氏

グラインダーの甲高い機械音が窓ガラスに響く。香炉や銅像が所狭しと並ぶ作業場に、熱気がこもる。昭和二十年代の岡崎には十二、三軒の鋳物工場があり、銅を使った鋳物製造が盛んだった。村瀬氏は、祖父の代から仏像、灯篭、香炉などの神仏具づくりを受け継ぐ職人だ。

「ものを作ったり、絵を描いたりすることが好きでした。それに小さなころから工場が遊び場で、仕事を手伝っていたので、この仕事をやるものだと自然に思っていました。大学も迷わず美術大学に進みました。」

大学卒業後は、京都の仏具製造会社で修業することにした。

「家族で仕事をしていると、修業する機会が少なくなります。そうすると、一歩抜け出せない。だから、三年ほど京都で働き、修業しました。」

その後は岡崎に戻り、四年ほど父親の下で働いた。しかし、頼りにしていた父親が突然倒れ、亡くなった。

「あまりにも突然のことで、仕事のことは何も聞けませんでした。岡崎の鋳物工場は減ってしまい、当時青銅器をつくっているのは、うちだけでした。頼れるところはありません。納期が迫った注文もあり、考える間もなく、昔からいる職人さんと一緒にやることを覚悟しました。お得意様を回って、仕事の内容を聞いたこともあります。」

混乱の中でも、仕事は次々と入る。

「うちは完全に受注生産です。お客さんは現物も見ないで高価なものを注文します。つくり手への信頼ですよね。顧客が求めるもの以上の製品をつくらなければ、次はありません。鋳物は気候や土質、金属の配合などに影響を受け、失敗がつきまとう繊細なものです。加えて、様々な宗派に合わせたデザイン、原型、鋳型づくり、製品の設置までのすべてを自分の工場でこなす必要がありました。」

これまでの歩みを振り返りつつ、力強い口調で村瀬氏は続ける。

「どこまでつくり込んでも、きりがない仕事です。だから、今でも一人前になったとは感じません。失敗するたびに勉強です。」

鋳物づくりは、風土に根ざしている。長年、岡崎で鋳物づくりを続けたことで、得たものは多いという。

「岡崎には先人たちの技術と、それを伝える製品が数多く残っています。特に灯籠づくりの技術は日本一です。岡崎で生まれた独自の製法やアイデアを私も引き継ぎ、製品に注いできました。私が納める灯籠によって、全国に岡崎の技術が伝わることになります。やりがいがあります。」

父親の死という逆境は、自分の成長につながったと村瀬氏は語る。

「人間、やってみれば何とかなる。父を失った後の苦労があるから今の私がある。どんな難題が来ても大丈夫、何とかなると思えます。」

爽やかな笑顔の中に、経験に裏打ちされた、確固たる自信を感じた。

（氏　名　むらせ　てつや
生年月日　昭和四十三年二月三日
住　所　岡崎市羽根町）

羅針盤

生活に生かす力を育てる

技術・家庭科指導員
夏目　弘之

中学校で、電気エネルギーを光に変える仕組みを学び、目的と場に応じた照明の利用を考える授業を見た。

始めにA教諭は、現在利用されている、白熱電球、蛍光灯、LEDの三つの照明を取り上げ、発光の仕組みを予想させた。生徒は小学校の体験から、「白熱電球は線のところが光る」と答えた。蛍光灯も同様に、「中に線が通っていて発光する」と考えた。LEDについては予想すら立てることができなかった。

そこでA教諭は、三つの照明が比較できる教材を自作した。このとき、白熱電球はフィラメントがよく見える透明の電球を、蛍光灯は中央部分のみ蛍光物質が塗布され、極の部分は透明で見えるものを準備した。三種類の照明を、同じ電流で点灯させ、生徒に手で触れるよう指示した。

わたしたちのつながり

シンガポール日本人学校クレメンティ校
杉浦　聡

現在、私が勤務するシンガポール日本人学校では、二千人超の子供たちが学んでいる。今はシンガポールで暮らす子供たちだが、ほとんどの子供が別の場所で生まれ育ち、数年後には新たな場所へと旅立っていく。出会いと別れを経験しながら、子供たちは学校生活を送っている。

小学校三年生の担任として二か月が過ぎたころ、ある保護者から突然にアメリカに転居することになったと連絡が入った。さっそく、クラスの子供たちに級友の転校を伝えた。ところが、子供たちは驚いた様子もなかった。別に珍しいことではないと思ったのだろう。

しばらくすると、子供たちからメッセージカードを贈りたいという声があがった。真剣にカードへ思いを込める子供たちを見て、うれしく思った。

放課後、メッセージカードを貼り合わせた。全員回収したものとばかり思っていたが、A男のカードだけがないことが分かった。何を書こうか迷っているのかもしれないと考え、少し待ってみたが、次の日も、また次の日も、A男のカードが出されることはなかった。A男は勉強にも運動にも一生懸命で、仲間たちから慕われていたが、このときのA男は、去っていく仲間を思う気持ち以上に、カードを出していない自分の立場を気にしているようだった。そんなA男に、みんなと一緒に一つのクラスをつくっているのだということ、そしてこれからもずっとつながっているのだということを感じてほしいと考えていた。

自分から言い出せずにいるA男の背中を押すためにも、何かできることはないかと考え、翌日、教室に子供たちが生まれ育った場所と、これから旅立っていく場所を示した地図を掲示した。クラスの仲間と一緒に地図を眺めて「ぼくはシンガポールで生活するのは二回目だよ」と話すA男に、「みんな、それぞれの場所で育ったんだけど、今はここにいるんだね。今のこの時間を大切にしないとね」と声をかけた。

仲間の転出が一日、一日と近づくにつれて、クラス全体の仲間を笑顔で送り出したいという気持ちの高まりが私にも伝わってきた。

仲間の転出が翌日に迫った日、A男は友人に付き添われて職員室にやってきた。涙をため、手にはメッセージカードが握りしめられていた。

「どんな気持ちで涙が出たのかな」という私の問いかけに、

「みんなで作らないといけないのに、僕だけ。」

とA男は答えた。みんなのことを考え、このままではいけないと思い行動したのだと分かった。二十七人の思いが詰まった贈り物の完成だった。

それからわずか半年の間に、合わせて五人の仲間が世界各地に転出した。去った子供たち全員が、今まで一緒に過ごした仲間の思いが詰まった贈り物を手にして旅立った。

広い世界で、いくつもの偶然が一つにつながって巡り合った仲間が、今ここにいる。A男には、これからも、出会いと別れを大切にしながら、大きく成長してほしいと願っている。

照明に関心がなかったB男だが、この教材に触れると、「白熱電球はとても熱い」「蛍光灯は極から紫色の光が出ている」「あれ、LEDだけ冷たい」と、驚きを隠さなかった。特に、予想と違う発光原理であった蛍光灯の放電に強い関心をもった。そして、「白熱電球は温かく、やわらかい。LEDは鋭い」など、光の様子についても言及した。知識だけで実体験を伴わない学びは、生活に生かすことが難しい。A教諭は、生徒に知っているようで知らない照明器具についての知識を自覚させ、さらに興味を喚起することに成功した。

各照明の発光の仕組みを教えた後、A教諭は生徒に自分の家の照明をイメージさせ、どの部屋にどの照明が適しているかを考えさせた。B男は、「リビングは長時間使うし、みんなが集まるので、明るく省エネのLEDがいい。トイレは使用時間が少ないので、値段が安い白熱電球で十分だ」と、実生活を念頭に置いて照明の適切な選び方を考えた。

社会は刻々と変化し、生活も多様化している。生活の中で生じた疑問や課題を、身に付けた知識や技能を活用して解決したり、学んだことを生活に取り入れ、よりよい暮らしを創造したりする力の育成が、今後さらに重要となる。

運動を楽しむ おかざきっ子をめざして

▲ タグラグビー　1対1のタスクゲーム（根石小）

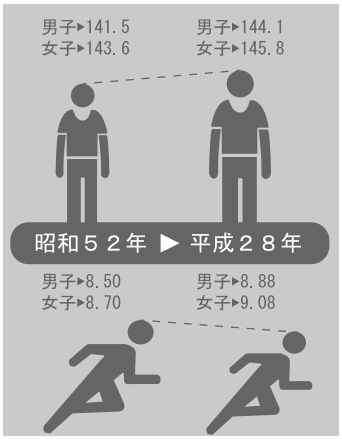
岡崎市では、生涯を通して気軽にスポーツを楽しむ環境を整え、スポーツの市民生活への定着を目指し、平成二十二年度に、「岡崎市スポーツ振興計画」を策定した。この計画は、平成二十二年度から平成三十一年度までの十年間であり、平成二十八年二月には、中間見直し版が発行された。

この計画は、スポーツを「はじめる」、スポーツに「親しむ」、スポーツで「人や地域とつながる」を三つの柱としており、その実現に向けて様々な施策に取り組んでいる。中間見直し版では、運動を始めるきっかけ作りとして、ニュースポーツの普及や推進の見直しと、一層の拡充が図られた。運動に親しみ、運動そのものを楽しむことで、体力向上や健康維持と同時に、スポーツを日常的に行う人の拡大を目指している。

学校現場でも、体育の授業の中でニュースポーツや体つくり運動などを通して、運動に親しみ、運動を楽しむ子供を育てる実践が続けられている。夢中になって運動し、「もっと長くやりたい」「明日もやりたい」と感じる子供を増やすことができれば、体力の向上と共に生涯に渡ってスポーツを愛好する資質の向上につながる。

社会や生活の変化に左右されず、進んで運動を楽しむおかざきっ子の育成を目指し、より一層の取り組みが期待される。

岡崎の子供　体格・体力比較（小６）



ニュースポーツとは・・

- ○ 年齢や男女によるハンディが少なく、誰でも参加できる
- ○ 競うことより楽しむことを主とする
- ○ 海外で歴史があっても、日本にとっては新しいスポーツ
- ○ 新しく考案されたものや既存の遊びやスポーツを改変したものがある

ニュースポーツの例

グラウンドゴルフ	ディスクゴルフ
インディアカ	ゲートボール
キンボール	ミニテニス
ソフトバレーボール	ドッチビー
マレットゴルフ	プレルボール
タグラグビー	フラッグフット

など

★多種多様な種目が存在する

◀岡崎市スポーツ振興計画（平成二十二年度）

▲http://www.city.okazaki.lg.jp/1300/1303/1323/p018630_d/fil/suishinkeikaku.pdf

※中間見直し版「岡崎市スポーツ推進計画」

▲キンボールで運動を楽しむ（矢作北小）

▲プレルボール（細川小）

▲用具を工夫し、多様な動きをつくる体つくり運動（矢作北小）

▲ 少人数でフラッグフット（形埜小）

▲ バットと大玉を使った体つくり運動（井田小）

▲子供が夢中になって投げる運動（福岡小）

運動を楽しむ子供を増やすために

★学習展開の工夫（タスク形式・ドリル形式など）
★教具の準備と提示方法の工夫（十分な数・種類　など）
★子供の実態に合わせたルール設定
★活動時間の確保
（指示や説明の精選・主運動に合わせた準備運動　など）
★運動の組み合わせ方の工夫
★運動量を高める工夫
（少人数・活動の場や活動グループを増やす　など）

お知らせ

● 教育最新情報

◆第50回愛知県教育研究論文

今年の愛知県教育研究論文では、岡崎市から最優秀賞一点、佳作二点が選ばれた。最優秀賞の受賞は、二年連続となり、岡崎の教育実践の確かさが示された形となった。

今年度の募集より、表紙に写真など資料を載せないことが体裁の留意事項に加わった。理論部分の整合性や実践部分の検証に注意することはもとより、文字数や資料の載せ方などの体裁にも十分に気を付けて、論文執筆に取り組んでほしい。

○最優秀賞（個人）

竜海中学校　市川翔子

「考えを伝え合い、仲間と共に表現を磨きながら、分析的に読みを深める生徒の育成」―3年国語科『故郷』「お薦めの小説を、大切なあなたへ…【小説ガイド】を作ろう」の実践より―

○佳作（個人）

翔南中学校　日置正敏

「身近な社会的事象に関心をもち、多面的・多角的に追究して考えを深め、よりよい社会づくりに生かすことができる生徒の育成」―3年社会公民的分野単元「18歳選挙権を機に投票率アップにふさわしい政策を考えよう」の実践を通して―

○佳作（共同）

山中小学校　現職研修部

代表　吉田靖子

「生活に生きて働く『書く力』の育成」―「書写力」「語彙力」「活用力」を基盤とした書く授業を通して―

◆平成二十九年度全国学力・学習状況調査

○調査の対象

小学校六年生、中学校三年生

○調査事項

小学校は、国語・算数、中学校は国語・数学で、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を調査する。調査対象の児童生徒への質問紙調査、学校に対する質問紙調査も行われる。

○調査の方式

今年度に引き続き、小学校六年生と中学校三年生全児童生徒を対象とする悉皆（しっかい）調査が行われる。

本調査を行うことにより、児童生徒の学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題に関する検証改善、児童生徒に対する教育指導の改善等をきめ細かく行う。

○調査実施日

平成29年4月18日（火）

◆平成二十九年度岡崎市教員免許状更新講習

平成二十九年度も、岡崎市による独自の教員免許状更新講習を行う。夏期休業中に、無料で行う。

講習は、岡崎の教育に携わる講師により、岡崎の教育の現状をふまえた実践的な内容とする。

○受講対象者

一　平成二十九年度に岡崎市立学校・こども園等に勤務する本務職員と常勤講師・非常勤講師・教員補助者で、次の生年月日に該当する者

昭和38年4月2日～39年4月1日

昭和48年4月2日～49年4月1日

昭和58年4月2日～59年4月1日

二　一以外で、延期申請を行い、修了確認期限が、平成30年3月31日の者

三　その他、岡崎市教育委員会が必要と認める者

受講対象者自らがしっかりと自覚し、確実に更新講習受講申請をする。また、各園・学校で受講対象者について確実に把握する。受講申込書の提出は、四月に行う。

○受講申し込み期間

平成29年4月3日（月）～4月14日（金）

○講習期日と会場

①必修講習

平成29年7月29日（土）

②選択必修講習

平成29年7月30日（日）

③選択講習

平成29年8月3日（木）・4日（金）・8日（火）

会場は総合学習センター等

○受講対象者説明会

平成二十九年度の受講対象者に対し、説明会を次のように行う。

・日時

平成29年2月24日（金）

受付　午後五時半～

・場所

総合学習センター

◆研究発表について

本年度、三島小学校、山中小学校、葵中学校の三校の市委嘱研究発表において岡崎市の教育に対する大きな研究の成果を得ることができた。

《平成二十九年度研究発表校》

来年度の研究発表予定校は、次の七校である。そのうち、市委嘱校が三校、自主発表校が二校である。

○市委嘱研究発表校（三校）

北野小学校　十月四日（水）
竜美丘小学校　十一月八日（水）
福岡中学校　十一月十五日（水）

○自主発表校（四校）

竜海中学校　十月二十五日（水）
連尺小学校　一月三十一日（水）
〈附属学校〉
附属岡崎中学校　十月三日（火）
附属岡崎特別支援学校　十一月十日（金）
附属岡崎小学校　十一月十七日（金）

●表　彰

◆全国中学校駅伝大会

○女子の部
十五位　岩津中学校

◆愛知県中学校駅伝大会

○女子の部
優勝　岩津中学校
八位　甲山中学校
○男子の部
三位　北中学校
五位　岩津中学校
八位　竜海中学校
○女子区間賞
二区　岩津中　木村　栞
五区　岩津中　浅野智尋
○男子区間賞
二区　竜海中　小林亮太
四区　六ツ美中　杉浦　樹
五区　矢作中　長坂　知

◆愛知県中学生バレーボール大会

○男子
優勝　矢作中学校

◆愛知県駅伝カーニバル

○男子中学
優勝　竜海中学校
二位　北中学校
三位　六ツ美中学校
○女子中学
優勝　矢作中学校
三位　北中学校
○区間賞男子
一区　翔南中　後藤謙昌
二区　城北中　片山宗哉
新香山中　浅香　光
三区　六ツ美中　杉浦　樹
四区　竜海中　小林亮太
○区間賞女子
一区　竜海中　鈴木恵美
二区　矢作中　杉浦花音
四区　矢作中　純浦美桜

◆西三河中学校新人バスケットボール大会

女子準優勝　岩津中学校

◆瀬戸地方近郊駅伝競走大会

○中学生の部
男子二位　美川中学校
女子二位　美川中学校

◆統計グラフ全国コンクール

○第三部
入選　竜美丘小　山本愛結
○第二部
佳作　竜美丘小　山本結月

◆東海・北陸地区中学生技術・家庭科創造ものづくりフェア in 石川　第15回創造アイデアロボットコンテスト

○基礎部門
優勝（全国大会出場）
常磐中　近藤泰暉・柴田あみ
準優勝（全国大会出場）
常磐中　梅村聖磨・早瀬貴敏
三位（全国大会出場）
常磐中　山口優器・中根聖斗
○活用部門
準優勝（全国大会出場）
常磐中　深田脩斗・半田琳子
小杉ひかり・早瀬貴敏

◆全国小・中学校作文コンクール県審査

○中学校の部
最優秀賞（県代表）
甲山中　松井咲樹
○小学校低学年の部
優秀賞　城南小　中村心実
城南小　大谷萌愛
佳作　城南小　広田晴斗
奥殿小　山口暖斗
○小学校高学年の部
優秀賞　六ツ美中部　尹　美輔
奥殿小　市川槙人
奥殿小　鈴木　匠
佳作　城南小　柴田千穂

◆徳川家康公作文コンクール

優秀賞（家康賞）
三島小　山田絢音
大樹寺小　江島来紀
竜美丘小　箕浦　杏
市長賞
三島小　川本夏輝
教育長賞
三島小　手島奏太朗
中日新聞社賞
梅園小　服部翔空
大樹寺賞
大樹寺小　土射津裕太
伊賀八幡宮宮司賞
常磐中　井上愛海
龍城神社宮司賞
緑丘小　稲森日菜

親子ドッジボール
（平成 13 年）

写真提供：豊富小学校

休み時間になると、子供たちはドッジボールに夢中になる。息を弾ませ、競い合い、歓声を上げながらコートを動き回る。その姿は今も昔も変わらない。

豊富小学校では、昭和六十一年から親子ドッジボールを始めた。平成八年にはＰＴＡ主催の全校親子ドッジボール大会へと発展し、現在もＰＴＡの伝統的な行事となっている。子供たちは仲間との絆を強め、親は子供の投げるボールの勢いに子供の成長を感じている。

古くから保護者・地域・学校が一体となった活動が各学校で展開されている。子供を通して親同士がつながり、家庭と学校とが連携し、共に教育に取り組む営みは、これからも求められている。

・カット　福岡中　山田　周

＊忘れる力　思考への知の条件　　**外山滋比古**
さくら舎　　¥1,400

心に残った一文

忘却は、ただ記憶を整理するだけでなく、記憶を洗練し昇華させる。

著者は、知にかかわる仕事を30年以上続けてきたからこそ、忘却の価値に気づくことができたという。忘却は、「思い出を美化し、ストレスを解消して体験を昇華させ経験にする」と語る。物事の見方を変えて考えてみることのおもしろさを感じることができる一冊である。

また、外山氏は、「生活から遊離した知識の詰め込みを優先してきた学校教育は、多くの才能を失った」と手厳しい。歳を重ねても、著者のように柔軟な思考を続けることが、忘却の暴走から自分を守り、健康であり続ける秘訣なのだろう。

＊不運と思うな　　**伊集院　静**
講談社　　¥926
＊雑談力　　**百田　尚樹**
PHP研究所　　¥780
＊ぼくの花森安治　　**二井　康雄**
CCCメディアハウス　　¥1,400

宮崎小　　**杉田ひろ子**

方向を定め、勢いよく腕を振る。解き放たれた独楽は、わずかに軸を揺らしつつ、安定した軌道を描いた。独楽の達人になりたくて、子供らは師匠である学区のお年寄りに何度もこつを聞いた。「よし、いいぞ」「もっと回れ」。独楽に見入る子供の顔は、できた喜びに満ちていた。

時と共に、子供たちの生活環境は大きく変化した。近所の空き地でボール遊びができた時代が懐かしい。公園で駆け回る子供も見かけなくなった。遊びで運動する時代から、運動のために遊びを取り入れる時代になったとしても、たくましい子供を育てる教師の願いは変わらない。

ホッと

睦月

月明かりを浴び、伊賀八幡宮の神馬像は鈍く背を光らせる。勇猛さと躍動感を表現したムラセ銅器の作品だ。青銅器を手掛ける業者は少なく、全国から受注するという。

「自分の作品に各地で出会う。光栄です。」と、村瀬氏は微笑む。伝統を継ぐ匠の技は、今も各地で輝きを放つ。

かるた会（シンガポール日本人学校）